



OPEC、石油の需要増予測を維持

石油輸出国機構（OPEC）は12日に公表した月報で、2024年の世界の石油需要が前年比日量225万バレル増えるとする見通しを据え置いた。24年の世界経済の成長に「上振れの可能性がある」との見方も示した。25年の予測も変更しなかった。

月報では、中国などのけん引によって非経済協力開発機構（OECD）諸国で日量200万バレルの成長が見込まれるとした。OECD諸国では米国などが需要の伸びを支えると予測している。

OPECは24年の世界経済の成長について「下振れリスクは残るが、年初から予想される勢いが続けば24年の世界経済成長に上振れの可能性がある」と、強気の見方を示した。24年前半まで経済成長の「力強い動き」が続くと指摘した。

25年の石油需要は前年比で日量185万バレルの増加とし、2月の予想から変更しなかった。インド、中国を中心とするアジア経済が「力強い成長軌道を描く」とし、24～25年の経済成長に弾みを付けると強調。米国でも「成長の勢いが加速する」とした。



フェノール価格3%高 3月国内大口、ベンゼン上昇で

フェノール価格
国内大口3%高
3月、ベンゼン上昇で
合成樹脂などの原料と
なる工業薬品フェノール
の国内大口価格が上昇し
た。三井化学などが決め
る3月分の価格は1キログ
当たり379・1円と、
前月比11・3円(3%)
高い。値上がりは2カ月
連続。原料のベンゼンの
国内想定価格の上昇が波
及した。



CO2から再生航空燃料 東芝が製造装置発売

CO₂から再生航空燃料

30年めど 東芝が製造装置発売

東芝は2030年に二酸化炭素(CO₂)を使って再生航空燃料(SAF)をつくる製造装置を発売する。年産能力は最大20万トで、日本とニューヨーク間を300往復する分にあたる。政府は30年までに日本の空港で給油する燃料のうち1割をSAFにするよう定めており、拡大が見込まれる需要を取り込む。開発する装置は排ガスなどから分離回収したCO₂を電気分解し、一酸化炭素(CO)をつくる。CO₂は電気分解しづらい特性を持つが、燃料電池の技術を応用した独自の電極を使って電気分解にかかる速度を高めた。石油元売りを販売先として見込む。石油元売りが水素と反応させ、SAFや他の材料などをつくる。SAFをつくる際、石油元売りは保有する石油精製設備のうち6割を転用できる。



大成建設、再生アルミを建材に 供給網でCO2ゼロめざす



大成建設は2025年春に完成予定の自社グループの研究施設に、原材料の7割にアルミリサイクル材を使ったビル用建材を採用する。セメント使用量の削減も進め、建材調達から解体までのライフサイクル全体で二酸化炭素（CO2）排出量の実質ゼロを目指す。

再生アルミ建材はLIXILの「プレミアムR70」を使う。スクラップ材から不純物を除去して再利用しており、従来より材料調達から製造時に発生するCO2排出量を約55%削減できる。

埼玉県幸手市に建設する研究管理棟の2～4階の窓枠部分に再生アルミ建材を採用する。天井や壁用の石膏ボードなどでも脱炭素に対応した素材を採用する。バイオ由来燃料を使った建設機械の導入にも取り組む。

大成建設は23年に設計データを3次元化する技術を使って、施工時のCO2排出量を算出するシステムを開発した。今後は建物の解体や新築工事などで発生したアルミ廃棄物を回収し、リサイクル材に再利用する取り組みも行う。



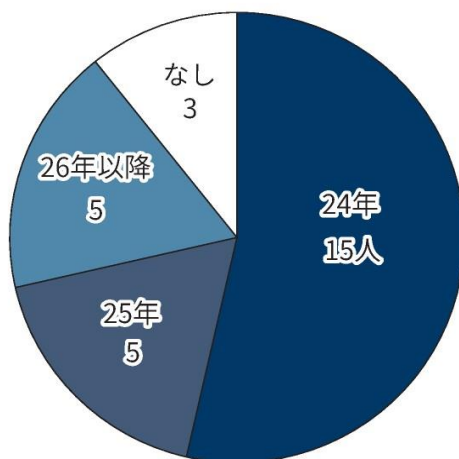
日銀マイナス金利解除後利上げ、専門家5割「年内」予想

日経QUICKニュース（NQN）が、金融政策を分析する「日銀ウォッチャー」28人にマイナス金利解除後の追加利上げ時期を聞いたところ「年内」予想が5割強に上った。アンケートは今月4～6日に実施した。継続的な利上げは難しいとの見方も多く、2025年末時点での短期政策金利の水準については予想の中央値が0.25%にとどまる。

・追加利上げ、最多は「今年7月」の4人

マイナス金利解除は今月か来月が有力視されている。その後年内に追加利上げがあると予想したのは15人と回答者全体の54%に上った。15人のうち「7月」の予想が4人と最も多く、次いで「9～10月」「10月」がともに3人だった。1人は「早ければ6月」と答えた。

マイナス金利解除後の追加利上げ時期



(注)24年は「24年度後半」を1人含む

NIKKEI

パークレイズ証券の馬場直彦調査部長は、日銀は「マイナス金利やゼロ金利から早く脱したいと考えている」とみて、7月会合で政策金利を0.25%まで引き上げると予想する。ただし「マイナス金利解除の影響を慎重に見守る場合、10月に後ずれする可能性も十分ある」とした。

「追加利上げは25年に入ってから」との予想は5人（28人中18%）で、26年以降になるとの予想も5人だった。

25年10月に追加利上げを予想する農林中金総合研究所の南武志理事研究員は「いったん2%割れとなることが見込まれる物価上昇率が、再び2%に向けて上がり始めるのを確認してから追加利上げを決める」とみている。



・継続利上げは困難との見方

25年末時点の短期政策金利の水準の予想には27人が回答し、範囲は0.00～0.80%だった。

25年末の短期政策金利	
平均	0.36%
中央値	0.25%
最高	0.80%
最低	0.00%

(注) 有効回答者数は27人。予想値がレンジ表記の回答は上限で集計

NIKKEI

大和証券の岩下真理チーフマーケットエコノミストは「(25年の) 賃上げの持続力に自信が持てない状況では、政策運営はゆっくり安全運転に徹することが見込まれる」として、24年9月か10月に0.25%に引き上げた後、25年末まで据え置きと予想する。

みずほ証券の上野泰也チーフマーケットエコノミストは、マイナス金利解除後の利上げは当面ないとみる。国内物価の上昇率鈍化が見込まれるうえ、米連邦準備理事会 (FRB) など米欧の中銀の利下げで為替が円高方向になると予想されることなどを理由に挙げた。



週間原油コストの推移

	期間	原油相場		為替レート(▲は円高)		円建て原油コスト	
		ドル/バレル	前週比	ドル/円	前週比	円/ℓ	前週比
火曜日～ 月曜日	1/30～2/5	80.54	▲0.77	148.41	▲0.62	75.18	▲1.03
	2/6～2/12	80.17	▲0.37	149.56	1.15	75.41	0.23
	2/13～2/19	82.68	2.51	151.17	1.61	78.61	3.20
	2/20～2/26	82.98	0.30	151.36	0.19	78.99	0.38
	2/27～3/4	83.25	0.27	151.44	0.08	79.29	0.30
	3/5～3/11	83.34	0.09	149.83	▲1.61	78.53	▲0.76
水曜日～ 火曜日	1/31～2/6	79.97	▲1.74	148.67	▲0.20	74.77	▲1.73
	2/7～2/13	80.77	0.80	149.74	1.07	76.07	1.30
	2/14～2/20	82.84	2.07	151.37	1.63	78.86	2.79
	2/21～2/27	82.79	▲0.05	151.43	0.06	78.85	▲0.01
	2/28～3/5	83.33	0.54	151.40	▲0.03	79.35	0.50
	3/6～3/12	83.36	0.03	149.12	▲2.28	78.18	▲1.17

※原油はドバイ、オマーン平均、為替レートは三菱UFJ銀行のTTSレート